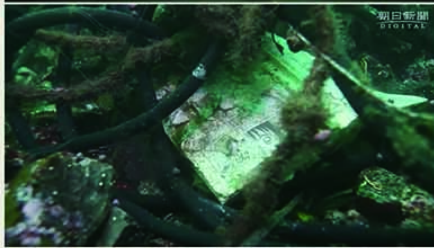


海から見た被災地 東日本大震災10年



▲【動画】海から見た被災地〜カメラがとらえた水中の10年
2011年6月岩手県山田町など(撮影・朝日新聞映像報道部取材班)

被災直後のがれきは
日常の様子をどめていた



▲海中に崩れ落ちた越喜来(おきらい)漁港の防波堤の残骸
2020年10月6日、岩手県大船渡市(撮影・諫山卓弥)



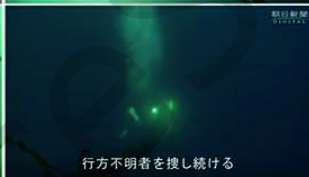
▲造船所から流出した金属板にコンクリブロックがのしかかる
2021年1月20日、岩手県大船渡町吉里吉里漁港沖(撮影・加藤諒)

東日本大震災から10年
東北地方の海中には今もがれきが沈む

(3月4日)朝日新聞映像報道部取材班



▲2021年1月27日 宮城県女川町竹浦(撮影・朝日新聞映像報道部取材班)



風化はさらに進んでいる
ボランティアのダイバーたちは今も行方不明者を捜し続ける
がれきの撤去作業も続く



▲水深10m 越喜来湾に沈んだ船が魚礁のようになっていた
2016年2月16日、岩手県大船渡市(撮影・竹花徹朗)



▲車の中はホヤやナマコなど様々な生物のすみかになっていた
2021年1月19日、岩手県大船渡市綾里漁港沖(撮影・加藤諒)

時がたつにつれて

がれきに生き物がすみ着く



マコンブの胞子が入った「スポアバック」に太陽光が降り注ぐ
2021年1月21日、岩手県大船渡市浪板海岸(撮影・加藤諒)

東日本大震災から10年が経過しました。被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興と、これからの日々の平穏をお祈りいたします。
令和3年3月11日
西表島エコツーリズム協会

厳しい冬を乗り越え
海中に今年も春が来る



▲岩手県大船渡市浪板海岸など(撮影・朝日新聞映像報道部取材班)

月日がたつにつれて少しずつ復興する漁業
黒い泥に覆われていた海中には生き物が戻ってきた

we support
RQ
災害教育
センター

MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め
復興支援「すけさきたしんぶん」
かわけばん

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

MARCH
11
2021



資料:朝日新聞フォト、朝日新聞映像報道部取材班

海から見た被災地 東日本大震災10年 https://www.asahi.com/shinsai_fukkou/undersea/?iref=pc_leadlink

【動画】海から見た被災地〜カメラがとらえた水中の10年 https://www.youtube.com/watch?v=e58a1E_GLOI&t=385s

文責:井上文子(西表島エコツーリズム協会 東北復興支援担当)